

2022年5月15日（日）メッセージアウトライン 「神の時を知らない者への警告」

聖書箇所：ヤコブの手紙4：13～5：6

タイトル：「神の時を知らない者への警告」

テーマ：ヤコブは、自分の手紙の中で、信仰と行ないの関係をずっと論じてきました。

旧約聖書の預言者たちは、これから歴史の中で起こることや神のご計画について語り、神に従うよう口を酸っぱくして警告していました。イエス様も神の時・終わりの時はいつ来るかわからなくても、必ずその時が来る、だから、それに対して備えをするようにと語っておられました。

本日の聖書箇所は、高ぶる者・富む者への警告という内容ですが、実は良く読んでみると「神の時を知らない者への警告」であることに気付かされます。警告している相手はユダヤ人クリスチャンとイエス様を信じないユダヤ人です。この警告は信仰者の偽善性をあぶり出して、「神の時を知り備えよ」ということで、実は現代の私たちに対する警告でもあることを見てまいりましょう。

1. 高ぶる者への警告（ユダヤ人のクリスチャンへの警告）

- ①自分の人生の生活設計を自分の思うとおりに立ててそれを行なおうとしている人々へ
 - * 私たちのいのちは主の御手のうちにある。私たちは自分の命の長さを知らない。
- ②彼らが忘れてしていること（なぜ大言壮語して誇っているのか）偽善者の生き方
 - * 自分の思いが先に立っている計画なのか
 - * 神の願いを知っていながら無視しているのか
- ③ユダヤ人クリスチャンも、絶えず主の前に自己吟味をして歩むようにという警告（「主のみこころであれば」ということをいつも心に留めて行動するように）

2. 富に希望を置く者への警告（ユダヤ人で、イエス様を信じない人への警告）

- ①迫り来る自分たちの不幸とは？（5：1）
 - * イエス様を信じない者の行き着く先を知らない
 - * エルサレムの町が破壊され、神殿も崩壊する時を知らない
- ②「あなたがたの富は腐り、あなたがたの衣は虫に食われ、あなたがたの金銀はさびていきます。」（5：2，3）
- ③金持ちがやってきたこと（5：4～6）
 - * 貧しい人を虐げ、イエス様を信じるユダヤ人を迫害し、殺した
- ④彼らが忘れてしていること
 - * 主の時が必ず来るということ

3. 両者の生き方の共通点

①自分の生活の中心に神を置いていない。

自分の罪がわからない（偽善的生き方）

②歴史の中で彼らに何が起こったか？

最終的にイエス様を救い主として信じるのでできなかったユダヤ人は、神の時を知らず備えのないまま、永遠の滅びを迎えた。

4. 結論

①主の御前に真実に歩んでいるか、信仰による行いをしているか、偽善に陥っているところはないか、自己吟味してみましょう。

②イエス様が再び来られることを信じて、その備えをしているか、神の約束は必ず成就します。

ユダヤ人であっても異邦人であっても、イエス様を救い主として信じ受け容れない者は永遠の滅びに向かっているという厳粛な事実を受けとめましょう。

Iテサロニケ4：13～18に記されている教会の携挙の約束を心に留めて、希望を持って歩んでいきましょう。

神の時がいつなのか、また私たちが地上生涯を終えるのはいつなのかわからないのですから、ああ、遅かったということのないように、今日という日にイエス様を救い主として信じ受け容れて、与えられている日々をいのちの日の限り、イエス・キリストに従って歩み通して行こうではありませんか。